住みよい下大野

第49号

令和5（2023）年9月15日発行
下大野市民センター内　「住みよい下大野をつくる会」
311-1131 水戸市下大野町 6094-1 Tel 029-269-1288

p.1 令和5年度地区会会長挨拶／地区会役員名簿／地区会予算
p.2 地区会事業予定／女性セミナー／やっぱりスポーツ
p.3 下大野小学校長あいさつ／いくらか歩く会／市民センターより／福寿の集い／子育てボランティア／スポーツフェス
p.4 下大野風土記（水濱電車と塩ケ崎・平戸停留所）／編集後記

令和5年度地区会

会長　江口　孝史

異常な暑さが続いていますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。この広報誌が皆様の所に届くころはだいぶ涼しくなっているとは思いますが！！

コロナ感染症はご周知のとおり5月から「第5類」の感染症に位置づけられました。そして感染症対策は個人・事業所の判断に委ねられました。個人的には、今まで以上に気を配り、注意して対処して行かなければならないと思います。

新年度を迎え、早くも半年を過ぎようとしております。今まで、コロナ禍で実施を自粛してきました三世代交流事業（お月見会）やスポーツフェス（今までの運動会）は今年度実施して参ります。以前の「運動会」に代わるスポーツフェスは今年度が初めてです。各町内会に選手割り当てはしません。各自、家族等での自由参加です。内容、種目等については、戸別に案内のとおりです。多くの皆様に参加して頂きたいと思います。下大野サ皆コーまつり（文化祭）、ゴルフ、グランドゴルフ等（回覧でご案内のとおり）も昨年に続いて実施致します。

これらの行事・事業等を通じてコミュニケーションを図り、健康で楽しく過ごせる下大野地域づくりが出来ればと思います。皆様のご参加、ご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

地区会役員名簿

（令和5～6年度）

会長	江口　孝史
副会長	染井　源
〃	大和田　保
事務局長	荻沼　宏樹
総務防災部長	幸田　忠男
〃　副部長	大谷　広城（消防第19分団長）
〃　副部長	佐藤　和子（女性防火クラブ会長）
生涯学習文化部長	藤咲　静夫
〃　副部長	栗原　茂雄
環境福祉部長	栢内　栄
〃　副部長（兼）	染井　源
広報部長	市毛　精彰
〃　副部長	吉川　正弘
体育部長	後関　正広
〃　副部長	鴨川　正則
〃　副部長	飛田　博志
会計	山田　正寛
〃	平戸　道也
監事	桧山　一夫
〃　（兼）	大谷　広城

地区会予算

（令和5年度）

◎ 収入

科目	金額
会費（1世帯500円）	333,000
補助金（水戸市・他）	868,410
委託料（市報配布）	407,500
繰越金	1,312,537
雑収入（参加費等）	38,553
合計	2,960,000

◎ 支出

科目	金額
会議費（総会）	50,000
負担金（住協）	26,165
事務費（通信・印刷等）	140,000
事業費	1,080,000
総務防災部	150,000
広報部	180.000
体育部	150,000
環境福祉部	50,000
生涯学習文化部	550,000
委託業務費（市報配布）	407,500
運動会費	450,000
旅費（研修会等）	60,000
育成助成金（3団体）	90,000
予備費	656,335
合計	2,960,000

地区会事業予定

水戸市民憲章に則り、地域コミュニティを活性し、文化の薫り高いまちづくりと住民が健康で豊かに暮らせるよう念頭において事業を進めます。

総務防災部

・地区会の住民が市民憲章をよく理解し、目的を達成するよう努める。
・各専門部の活動と、地区会全体の企画とが調和するように連絡調整を図る。
・行政や関係機関に地区住民の意向を反映してもらう為の連絡調整を行う。
・交通安全、防犯、防災（防災計画、災害時の対応、復旧対策等）の推進を図る。

広報部

・地区会活動並びに地区住民の考え方や提案等を知らせる広報紙を発行する。
・下大野市民センター開催の講演会や各種講座に参加する市民の活動の様子を知らせる。
・地域の皆さんに愛され親しまれる広報紙づくりを進める。

環境福祉部

・花いっぱい運動を推進し心豊かなまちづくりに努める。
・清潔なまちづくりのため、一斉クリーン作戦を推進する。
・青少年健全育成運動を推進する。
・ゴミ減量のＰＲ活動を推進する。

体育部

・スポーツを通して住民の連帯と協調を育み、健康な体力づくりとまちづくりに寄与することを目的に次の行事を推進する。
・第１回スポーツフェス・ソフトバレーボール大会・ソフトボール大会・常澄ブロック市民歩く会・グラウンドゴルフ大会・オープンゴルフ大会

生涯学習文化部

・文化の薫り高いまちづくりに寄与するため、各種団体のご協力をいただきながら様々な行事を推進する。
・お月見会（９／28）
・下大野サ皆コー祭（11／26）

女性セミナー

柔甘ねぎ料理講習会

６月 14 日(水)　10:00～12:00
市民センター調理室

地域おこし協力隊員である田中貴史先生をお迎えして、５月中旬から７月初旬が旬の本市ブランド農産物である『水戸の柔甘ねぎ』を使った料理を２品作りました。

〖メニュー〗

柔甘（やわらか）ねぎの冷しゃぶ梅肉ドレッシング添え

ご飯のお供！納豆と山形ダシ

「水戸の柔甘ねぎ」は、「柔らかくて甘い」、「白い部分が長い」などの特長があり、農林水産省が定める地理的表示(GI)保護制度にも登録されているそうです。

参加者の方が「自分の家でねぎを作っていますが、少し高いけど、美味しいから、この時期売っているのを見つけたら買うぐらい美味しいよ！」と、教えてくれました。緑の部分を少し頂き食べて見ましたが、辛味がほとんど無くとっても美味しかったです。（KG）

やっぱりスポーツ

体育部は下大野地区市民が球技大会を通じて親睦と交流を深めると共に、スポーツ活動の復興とコミュニティーづくりを目的に開催しておりますが、コロナ禍によりここ何年か、球技大会が開催されませんでした。

今年は、コロナ禍も落ち着き、６月４日(日)のソフトボール大会は中止でしたが、６月 11 日(日)のソフトバレーボール大会は、①下大野１区チーム Pika1②チーム MIX(下大野１区・２区川又の混合)③小泉チーム④平戸チーム⑤塩崎 SV―A⑥塩崎 SV―Bの６チームの参加により、４年ぶりに開催されました。

コロナ禍を乗り越え、練習を続けて参加するチーム、久しぶりに集まって参加するチーム、仲良し親子チームで参加するチームと色々なストーリーがありました。試合を通してのスポーツ会話は、清々しく、気持ち良く、なにより皆さんとの対戦は楽しかったです。

７月２日(日)常澄ブロックのソフトボール大会は、今までの選出が出来なかったので、下大野地区全体に声かけして、１チーム(地区混合の 14 人)で参加しました。年齢幅があり練習もしてないのに守備がスムーズに決まり、楽しく試合が出来ました。

残念ながら１回戦で優勝した大場チームに敗れましたが、試合後は皆で「お疲れさん会」で盛り上がっていました。

７月９日(日)常澄ブロックのソフトバレーボール大会は今までのルールに加え、60 歳以上の男性は女性枠に入れ、その時は、相手チームにハンデとして１人につき３点を与えるなど、常澄ルールで多くの方に参加して頂けるよう考えました。

１コートの塩崎SVA、３コートの小泉が、４コートの Pika１は準優勝でした。

皆で楽しくスポーツを通して、健康寿命を伸ばしていきましょう。

（後関正広）

自ら気づき、考え、動く子供たち

下大野小学校長　田村　悟

「おはようございます!」朝の正門付近には子供たちの元気な声が響き、清々しい気持ちで1日のスタートを切ることができます。この子供たちは、今後、変化が激しく、先が見通せない時代を生きぬいていくことになります。本校の学校経営のキーワードである「気付く→動く」は、子供たちがこの時代を生き抜く素養を身に付けるために、必要な過程であると考えます。

これまで、「手をかけすぎている」「子供自身が考える時間や機会が充分ではない」という反省がありました。確かに大人の指示通りに動けば、大きな失敗はないかもしれません。しかし、それでは子供の「考える力」が育まれません。今年の運動会では、子供たちが競技方法等を考えた種目「運命の綱引き寄せろ」(全員参加の綱引き)が取り入れられました。

また 131 年目を迎えた創立記念日を祝う「創立記念集会」でも、子供たちが内容を考え,当日の司会進行の全てを担い、笑顔あふれる集会となりました。子供自身,自分のアイディアが生かされた、役に立ったという経験の積み重ねが、「考える力」の育成につながります。創立記念集会を進行したある児童が「失敗してもいいんだよね」と、友達と話をしていました。この言葉は「失敗してもいいから自分で考えて取り組むことが大切」だと言うことを子供自身が学んだ証です。

全てを教える(指示する)のではなく、子供自身が何をすべきかに「気付き」、そのためにどうすれば良いか、考え判断して「動く」ことができる、そのような子供たちを育成することこそが,今,求められる教育の姿です。今後も地域の皆様のご理解・ご支援をいただきながら、未来を担う子供たちの成長を支えていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

いくらか歩く会

いくらか歩く会の「水戸八景巡り」第5弾が、5月26日に千波公園に集合して実施されました。

コースは、千波公園 D51 前～千波湖南岸～逆川緑地～塩橋～笠原水道跡～逆川緑地～千波湖北岸～常磐神社～偕楽園（仙奕台・偃湖の暮雪）という、ほぼ平坦な約9キロのコースでした。

古代の塩の道だったという塩橋や水戸光圀が建てた漱石所なる茶亭跡なども見学し、地元の史跡に関する無知を思い知らされました。

参加者は18名でしたが、久しぶりの「長い散歩」で皆さんややお疲れ気味でした。IY)

市民センターより

市民センター使用の仕組みとスタッフ配置が変わりました。

まず、市民センターを使用する場合、使用申請時に鍵箱の暗証番号が付与されます。使用時にこの番号で鍵箱のロックを外して鍵を取り出して建物に入ります。帰りは、同様に鍵箱のロックを外して鍵を中に返却します。

スタッフは、これまでの4人体勢から3人の専任になりました。清水センター長を田山さんと鈴木さんが支えます。アイディアマンでグラウンドゴルフをこよなく愛するセンター長と、優しく嫋やかで親切なおふたりの女性職員です。安心してセンターに顔を出しましょう。わからないことは何でも問い合わせましょう。(IY)

福寿の集い

今年長寿のお祝いを受けられる皆さま方、おめでとうございます。

令和5年度の「福寿の集い」対象者は、本年度に 75 歳、80 歳、85 歳、90 歳以上になる方です。

	男	女	計
下大野町	20	40	60
小泉町	12	23	35
川又町	14	22	36
平戸町	10	20	30
塩崎町	18	53	71
合計	74	158	232

（令和5年7月28日現在）

※ 子育てボランティア募集

下大野市民センターで開催している「子育て広場」での見守りボランティアを募集しています。

場所は下大野市民センター、時間は毎月第3火曜日9：30～12：00で8月はお休みです。募集人員は5名で、年齢制限はありません。下大野地区の方を優先します。

詳細は市民センターまで。

※ スポーツフェス案内

今年度より「市民運動会」に代わり「スポーツフェス」を実施し、世代間交流により健康増進を図り、楽しい一日を実現します。

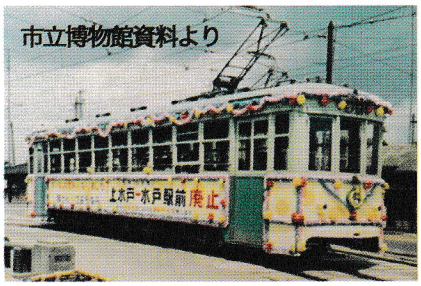
第1回は10月8日（日）に常澄トレセンを会場に開かれます。

各種の体力測定や、簡単なゲームなど全13種目で、「パン食い競争」は今年もメイン競技です。

下大野風土記（水濱電車と塩ケ崎・平戸停留所）

塩崎や平戸から、電車が見えなくなって久しく廃線から数えると半世紀以上57年も経ちました。

そもそも、下大野村を電車が通ったのは、大正11年（1922）12月28日でした。事業は、久慈郡太田町の実業家、竹内権兵衛によって起業され、水戸海濱電気軌道株式会社の設立によって、浜田～磯浜間の営業運転でした。



しかし、創業以来45年間親しまれたチンチン電車も、バスの発展、自家用車の普及、市街地交通の妨げなどで窮地となり、昭和41年（1966）5月31日の営業をもって終了、翌日全線が廃止されました。

チンチン電車とは、今のようなベルやメロディではなく、停留所近くになると、車掌が鈴につながる紐を引くと、チンチンと鳴ったのに因む愛称です。

はじめは浜田から磯浜間でしたが、翌年からは浜田から上市に向かって延伸工事が進められ、大正13年7月には水戸駅前を超え、南町まで伸びました。その後も順次延伸、偕楽園の公園口、三夜尊の谷中、上水戸を経て、茨城大学前や赤塚までも電車がつながりました。

磯浜から先も延伸、大貫、曲松、東光台から大洗、ゴルフ場が出来る前、子ノ日ヶ原の松林を抜け祝町まで伸びました。さらに、昭和5年、開門橋を渡り、湊辰ノ口まで最大時、総延長20Km余りの路線でした。

このルートに塩ヶ崎と平戸に停留所が設置され営業が開始されたことによって、沿線住民の足として大きな交通文化が開かれました。

塩ヶ崎停留所

廃止後の軌道敷は、常澄の村道に供用されました。昔を知るものは、誰となく「電車みち」と愛称し伝えています。停留所跡には何の遺構も見えませんが、備前堀にかかる橋から、「折居の泉」に向かって間もなく十字路になっていています。この交差点のすぐ右側に電車1両分余りの小さなホームがあって、屋根付きの待合所がありました。昭和15年の地図では、この辺の線路敷は広く書かれています。

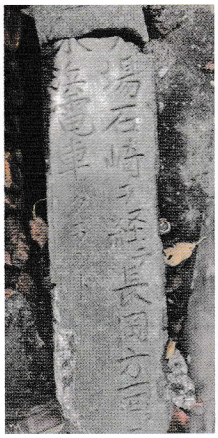
ここを利用する人たちは、塩ヶ崎はじめ、近隣区、大場方面の通勤通学の人々が主だったようです。また、下大野小学校の遠足も、低学年の春は大洗。秋は谷中の保和苑など、この停留所から子どもたちの思い出をつくってきました。

昭和30年中頃まで、夏は海水浴の客で連結の電車も走りました。また、谷中の霜月三夜の縁日に満員電車に揺られた語り草も残ります。さらには、有賀さんの御下がり、吉田さんのお祭り、六反田の縁日、十九堂参りなど女性たちの年中行事にも電車が利用されました。

平戸停留所

ここでの乗降客も普段は、平戸、川又、島田の通勤通学生、涸沼川の釣り客などの利用もありました。

平戸の区民館は電車みち沿いにありますが、昔の地図ではこの辺から路幅が広くなっています。ホームの跡は残っていませんが、停留所近くの安商店さんの角に道標があり、近隣の村々のほか、特筆する「水浜電車グランド」と刻まれていました。標の矢印は「字藤縄」の方を指しています。これは、大正12年（1923）10月、乗客誘致策として、草競馬などを行うグランドを開設、ここを案内する道標でした。グランドは、滝口さんの花園前方、涸沼川と木下し街道の間、現在水田となっている一帯がその場所でした。



さらには、同年、那珂湊から電車を使って水戸への便として、平戸、湊辰ノ口間に連絡船運航を開きましたが、目論見ほどのことがなく大正末年に廃止になりました。

電力の供給

水濱電車の事業は、電車のほかに、沿線の村々に電燈という新しい照明文化をもたらしました。それまで、行灯かろうそくの明かりしかなかった時代、電球の光に当時の人々の喜びは計り知れません。大正12年（1923）の秋、下大野村に電線が張られました。同時に沿線の村々にも導入され、遠くは那珂川を越え那珂郡勝田村、中野村にも電線が伸び普及が図られました。小泉にその時交わした契約書や、領収書が残っています。

（飛田邦夫）

編集後記

今年の5月に新型コロナウィルス感染症の位置付けが「2類相当」から「5類」に引き下げられました。これによりコロナ以前の生活がもどりつつあります■下大野地区も秋には、たくさんの行事が予定されております。広報部会のメンバーの積極的な取材により、地域に愛される楽しい広報紙をつくりたいと思います■編集に当たり、江口会長、清水センター長をはじめ、広報部の皆様のご苦労に感謝申し上げます。

（SI）

編集部員

市毛精彰・吉川正弘・後関圭子・坂場隆行・荻谷信之・栗原一則・鴨志田文雄・伊勢山芳裕・吉川勲

江口孝史（地区会長）